

□議員名：大井淳一郎

## 1 新型コロナウイルスへの対応について

論点	新型コロナウイルス対策本部の役割と現在の進捗状況はどうか。
回答	2月21日に対策本部を立ち上げ、イベントや集会の開催方針の決定、アルコール消毒液等の備蓄状況の確認や市民への周知方法の強化等について協議を行った。今後も感染状況等を的確に把握しながら、状況に応じた迅速な対応をしていく

論点	国の学校一斉休業の要請を受け、学校現場はどう対応するのか。
回答	3月2日午後から市内全小中学校を臨時休業することを決定した。卒業式の開催については、参加者を抑えるなど規模を縮小し実施することを確認した。児童生徒には休業の意味を十分理解させ、不要な外出を控え、自宅で過ごすよう指導をしている。

論点	休業中、学校教職員はどのような役割を果たすのか。
回答	積み残している学習内容がある中、どのように成績評価をするのか検討する必要がある。また、特別支援教育など児童クラブの指導に当たることにも検討している。他にも校区の見回りや家庭訪問を定期的に行い、児童生徒の健康状態等を把握しないといけない。

論点	放課後児童クラブの対応についてはどうか。
回答	8時から18時まで開所し、年間利用と長期休暇利用の登録児童の全てを受け入れている。支援員が不足するクラブには教育委員会を連携して市職員を派遣する。感染が拡大しないよう、ガイドラインに基づいて、手洗いやうがい、消毒等の対策を実施している。

論点	どういった市職員を派遣するのか。研修等は実施するのか。
回答	給食センターの調理員を1日16人ほど各児童クラブに派遣する。あくまで有資格者の補助員として入ってもらい、注意事項や子どもとの接し方についてのレクチャーを受けて支援にあたる。

論点	各種イベント開催についての現状と対応策についてはどうか。
回答	3月中の市主催のイベントや集会は原則延期または中止とする。民間団体等が主催する事業については、市の方針について説明をし、不要不急のものについては再検討をお願いしている。現在、多くのイベント等の中止の報告を受けている。

## 2 シティセールスについて

論点	シティセールスを進めてよかった点は何か。
回答	PRロゴマークや市のイメージカラーの策定、スマイルプランナー登録制度の運用開始などに取組み、観光PR動画の作成やハロウィンイベントの開催などを通じて市内外へ魅力を発信してきた。職員の意識も高まり、少しずつ市民に浸透してきていると評価している。

論点	残された課題は何か。
回答	この2年間は基礎固めの段階であり、今後はこれまで構築してきたツールや制度を活用しながら定着させることが重要である。本市の魅力である住みよさが市内外に伝わるようなPRの手法や取組の輪を拡大しつつ、粘り強く継続することが今後の課題と考える。

論点	令和2年度からシティセールス課が企画部に統合されることでシティセールスの取組が後退するのではないか。
回答	シティセールスの本来の目的は、市を知ってもらい、誇りや愛着を持ってもらうことで、交流定住促進につなげることにある。今回の改編は決してシティセールスを後退させるものではなく、さらに前進させるものであると認識している。

### 3 移住・定住の促進について

論点	移住・定住に特化した部署を置いて新たな推進策を講じてはどうか。
回答	移住・定住策は大変重要な課題であるにとらえている。来年度の組織改編において、シティセールス課内に定住促進係を設置して組織体制の拡充を図っていきたい。

論点	該当のホームページを見ると転入奨励金の紹介があるのみで、市の魅力などが目に飛び込んでこない。県内各市のように独自のポータルサイトを設けるなど情報発信してはどうか。
回答	今後はパンフレットの作成に加えて、ポータルサイトなどの情報発信も検討していきたい。

論点	地域おこし協力隊は、中山間地域づくりだけでなく空き家の活用人材などさまざまな場面で活躍している。地域おこし協力隊が新たな定住を生む仕組みにしていくべきだが、市の考えはどうか。
回答	全国で大変な活躍をされていることは承知している。本市も出遅れ感があるが、地域おこし協力隊が全市的に参加できるような体制を整えていきたい。